全国版d4PDFダウンスケーリングデータのバイアス補正データ

1. 識別情報

名称	全国版d4PDFダウンスケーリングデータのバイアス補正データ
略称	WBC-d4PDF5km(2022)
DOI	doi:10.20783/DIAS.668 [https://doi.org/10.20783/DIAS.668]
メタデータID	d4PDF_BiasCorrection_20250220250623122256-DIAS20221121113753-ja

2. 問合せ先

2.1 データセットに関する問合せ先

名前	水循環研究室
組織名	国土技術政策総合研究所
住所	日本, 305-0804, 茨城県, つくば市, 旭１
電話番号	029-864-2211
電子メールアドレス	nil-mizujunkan”at”ki.mlit.go.jp

2.2 プロジェクトに関する問合せ先

2.2.1 データ統合・解析システム

名前	DIAS事務局
組織名	国立研究開発法人海洋研究開発機構
住所	日本, 236-0001, 神奈川県, 横浜市, 金沢区昭和町3173番25
電子メールアドレス	dias-office@diasjp.net

3. ドキュメント作成者

名前	西村宗倫
組織名	国土技術政策総合研究所
電子メールアドレス	nil-mizujunkan”at”ki.mlit.go.jp

4. データ作成者

名前	西村宗倫
組織名	国土技術政策総合研究所
電子メールアドレス	nil-mizujunkan”at”ki.mlit.go.jp

5. ドキュメント作成年月日

2025-06-23

6. データ作成年月日

publication : 2025-02-19

7. データセット概要

7.1 序論

全国版d4PDFダウンスケーリングデータの日降水量・日平均気温に対して観測地点を起点にDual-Window法でバイアス補正したもの（ただし全国109の1級水系の流域内及び近傍に限る）。

7.2 トピックカテゴリ(ISO19139)

climatologyMeteorologyAtmosphere

7.3 時間情報

開始日	1981-01-01
終了日	2110-12-31
時間分解能	Daily

7.4 地理的範囲

北限緯度	45.2483
西限経度	129.8783
東限経度	144.7783
南限緯度	31.1983

7.5 グリッド

7.6 地理情報を識別する名称

7.7 キーワード

7.7.1 データセットに関連するキーワード

キーワードタイプ	キーワード	シソーラス名
theme	Atmosphere > Precipitation > Rain, Atmosphere > Atmospheric Temperature > Air Temperature	GCMD_science

7.7.2 プロジェクトに関連するキーワード

7.7.2.1 データ統合・解析システム

キーワードタイプ	キーワード	シソーラス名
theme	DIAS > Data Integration and Analysis System	No_Dictionary

7.8 データセットに関するオンライン情報

全国版d4PDFダウンスケーリングデータ : https://diasjp.net/ds2022/dataset/ds16.html

バイアス補正法（Dual-Window法） : https://www.jstage.jst.go.jp/article/hrl/14/3/14_117/_article/-char/ja/

ファイルダウンロード : http://data.diasjp.net/dl/storages/filelist/dataset:668

7.9 データ周辺情報

【データ容量】 ・日降水量：10.1GB ・日平均気温：7.75GB

7.10 データ配布情報

配布識別名	配布バージョン	配布に関する説明
CSV format	ver1.00	

8. 系譜情報

8.1 データ処理（1）

8.1.1 データセット作成に関する加工過程や履歴の説明

①全国版d4PDFダウンスケーリングデータから逆距離二乗法により観測地点に対応するデータを作成

②観測値の欠測を補間した上で対応する①とDual-Window法により観測値を起点としたバイアス補正量（率）を算出

③①に②のバイアス補正量（率）を付加

8.1.2 元データの情報

データ起源の引用名	加工するデータ起源の説明

9. 品質等

データの品質確保のために，担当者と独立した照査責任者および照査補助担当者を配置して，計算プログラムのチェック及び計算結果の検算を照査した.

10. 利用規約

10.1 データ提供者によるデータ利用規約

【利用目的】

・特に制限しません。ただし、内容を告知なく変更・削除することがあります。

【再配布】

・データを許諾なく第三者に再配布しないでください。

【免責事項】

・利用者が本データを利用することによって生じるいかなる損害についても作成者責任を負うものではありません。

【謝辞】

以下の例にならった記載をお願いします。

「本研究では、文部科学省気候変動予測先端研究プログラムのもと地球シミュレータを用いてd4PDFを全国5kmメッシュで力学的ダウンスケールしたデータに対し、国土技術政策総合研究所がDual-Window法でバイアス補正したデータを用いた。」

【論文の引用】

西村宗倫，高田望，因幡直希，坂本光司，柴川大雅，吉田翔，三浦悠，渡部哲史，仲江川敏之，竹下哲也: 全国版d4PDFダウンスケーリングデータのバイアス補正データの開発と公開，　　河川技術論文集,第31巻, pp.421-426, 2025.

【そのほか】

データ利用規約を定めていない事項は、DIASサービス利用規約（https://diasjp.net/terms/）およびDIASプライバシーポリシー（https://diasjp.net/privacy/）が適用されます。

10.2 プロジェクトによるデータ利用規約

10.2.1 データ統合・解析システム

データ提供者がデータ利用規約を定めていない場合は，DIASサービス利用規約（https://diasjp.net/terms/）およびDIASプライバシーポリシー（https://diasjp.net/privacy/）が適用されます.

DIASサービス利用規約とデータ提供者によるデータ利用規約に齟齬がある場合は，データ提供者によるデータ利用規約が優先して適用されます.

11. ライセンス

12. 謝辞の記載方法

12.1 データ提供者の指定による謝辞の記載方法

以下の例にならった記載をお願いします。

「本研究では、文部科学省気候変動予測先端研究プログラムのもと地球シミュレータを用いてd4PDFを全国5kmメッシュで力学的ダウンスケールしたデータに対し、国土技術政策総合研究所がDual-Window法でバイアス補正したデータを用いた。」

12.2 プロジェクトの指定による謝辞の記載方法

12.2.1 データ統合・解析システム

このデータセットを利用して学会発表，論文発表，誌上発表，報告などを行う場合は，以下を参考に謝辞を記載すること．また，データ提供者が示す謝辞の記載方法がある場合は，それも併記すること．

“ 本研究では、[データ提供者の名称]が提供する[データセットの名称]を利用した．またこのデータセットは、文部科学省の補助事業により開発・運用されているデータ統合解析システム(DIAS)の下で，収集・提供されたものである． ”

13. 参考文献

【全国版d4PDFダウンスケーリングデータのバイアス補正データ】

西村宗倫，高田望，因幡直希，坂本光司，柴川大雅，吉田翔，三浦悠，渡部哲史，仲江川敏之，竹下哲也: 全国版d4PDFダウンスケーリングデータのバイアス補正データの開発と公開，　河川技術論文集,第31巻, pp.421-426, 2025.

【全国版d4PDFダウンスケーリングデータ】

Kawase, H., M. Nosaka, S. I. Watanabe, K. Yamamoto, T. Shimura, Y. Naka, Y.-H. Wu, H. Okachi, T. Hoshino, R. Ito, S. Sugimoto, C. Suzuki, S. Fukui, T. Takemi, Y. Ishikawa, N. Mori, E. Nakakita, T. J. Yamada, A. Murata, T. Nakaegawa, I. Takayabu, 2023: Identifying Robust Changes of Extreme Precipitation in Japan From Large Ensemble 5-km-Grid Regional Experiments for 4K Warming Scenario. J. Geophys. Res. Atmos., 128, https://doi.org/10.1029/2023JD038513.

【バイアス補正方法（Dual-Window法）】

S. Watanabe, M. Yamada, S. Abe, and M. Hatono: Bias correction of d4PDF using a moving window method and their uncertainty analysis in estimation and projection of design rainfall depth, Hydrological Research Letters, 14(3), pl17-122, 2020.